

市民・NPOがつくる男女共同参画事業
男女共同参画センター横浜南 2014年度 地域出前企画

外国人女性の防災に関するヒアリング調査報告

NPO 法人シャーロックホームズ
2015年3月10日

1. 目標／目的の確認

☆2014 年度出前講座で目指す事

**災害弱者とみられがちな外国籍の女性も
実は地域を支える力を持っていることを認識してもらう**

子育て中の外国人女性の
Step1 不安やニーズを知り、
Step2 地域に結びつける機会にする

☆ヒアリングをする目的

- ・ 講座企画の参考目的で始めたヒアリングだが、実際には外国人に関するまとまったデータがなく実態がわかりにくいことが判明。この状況を考え更にヒアリングをすすめ、最終的に「フォーラム」との振り返りで報告することを目指し調査をする。
- ・ 「公益財団法人 横浜市男女共同参画推進協会」と地域をつなげる。
- ・ 情報の共有や交換をすることにより当法人の活動を知ってもらう。
- ・ 講座の出前先を見つける。

2. ヒアリングした外国につながる団体やキーパーソン一覧

区	日時・方法 (電話・面会・メールなど)	団体名	キーパーソン名
南区	2/10 面会	① なみ市民活動・多文化共生ラウンジ 防災だけでは集まりにくいので、日本語教室にプログラムとして組み込んでいるのが最近は主流。	館長 木村博之さん
	3/14 メール 8/12 電話	②南消防署 子どもと一緒にのほうが講座参加率が上がるのでは？ 子どもを通訳として活躍してもらうことがおすすめ。 簡単日本語ニュースのおすすめサイト： (http://www3.nhk.or.jp/news/easy/)	消防長 松永ゆりさん
	5/28 面会	③日枝小学校キッズクラブ 外国につながる生徒が多く、今回の講座ではその保護者とつながることを希望	主任指導員大下さん、 地域教育事業フリースペースみなみ運営担当 奥田宏明さん、 蒔田小学校はまっこスタッフ 金子さん

	5/21 面会	④みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ ここに防災に関する相談がほとんどないので、防災講座のニーズはあまりここでは感じない。	コーディネーター 王慶 紅さん（木村さん紹介）
	7/24、25 電話	⑤南区地域子育て支援拠点「はぐはぐの樹」 利用者の1割が外国人で、中国人とインド人が8：2の割合が多い	施設長 横田さん ／事務局さかた様
	8/20 面会	⑥日枝小学校 700超の生徒のうち、1割が外国につながる子ども達。子どもは日本語しゃべれるが、親のなかには日本語がわからない人もいるので、今年から、重要なお手紙を配布時には、英語と中国語もつけるようにした（YOKEの協力） 外国籍の保護者へのアプローチについては非常に関心が高い	副校長 三橋先生
	8/30 防災総合訓練 見学	⑦日枝小学校 津波を想定した学校4階への避難訓練と引取訓練を開催したが、お知らせが行き渡っていないためか、本日50名の欠席があった。そのうちの外国国籍の方が多い。	校長 大内先生
	11/8 防災訓練見学 (事前に電話)	⑧南吉田小学校と地域	副校長 金子先生
	12/16 面談	⑨南吉田小学校 47%が外国籍。中国・フィリピン・韓国・タイの順番が多い。	校長 藤本先生
中 区	6/28 面会	① 南区国際交流ラウンジ 同ビルにある地域子育て拠点「のんびりんこ」のママたちであるならば、お子さんの命のことなので、興味を持って参加してくれるのではないかと？	中村アキさん
	5/28、7/10 面会	②Art Lab Ova アーティスト仲間と若葉町周辺の外国人支援をしている 東小学校でも支援活動中	ヅルさん (蔭山千鶴さん)
	7/18 面会	③中区地域子育て支援拠点「のんびりんこ」 週に10人前後外国人が利用	施設長 安田めぐみさん
	7/23 電話	④中華街小紅保育園 60周年を迎える横浜華僑婦女会があるが、	園長 サクマさん 「のんびりんこ」安田さ

中 区		若いママたちの参加は少ない。昔は布おむつを乾す家庭が多くそれを目印に保健婦さんが訪ねていたが、今は紙おむつの時代でどこに埋もれた家庭がいるのかわからない、中華街は隣近所が中国人なので他の地区とは独特のコミュニティーであることなど教えてくれた	んの紹介
	9/22 電話	⑤中区消防署 予防係 外国人に特化した取り組みはまだ追いついていない。	なかもとさま
	9/30 電話	⑥中区役所 総務課危機管理室 避難勧告などを出すのは区。横浜市は基本、その地域や自治体が主体となって防災に取り組んでいる。もちろん必要に応じて、区からの情報も差し上げている。	係長 菅野(すがの)さま
	11/11 訪問	⑦熊猫幼稚園 保護者は在日3世、中国人、日本人の層に分かれる。それぞれ防災に関して意識の差を感じる。	PTA 理事会 会長 川野さま、 副会長 古屋さま
西 区 *	7/17 イベント見学 中休みを利用した子どもたちとの交流会	①東小学校 外国につながる生徒が多く、先生方も対策に積極的	Art Lab Ova ズルさんの紹介、取組中の東小のイベントに参加させてもらった
	9/30 イベント見学 外国人親子向け小児救急講座	① YOKE 主催、西区子育て支援拠点「スマイルポート」にて開催。 AEDの実習では、関心も高く、たくさんの質問もあり、とても熱心。 中国・英・仏・インドなど多国籍の方々15名参加。	YOKE：藤井美香さん、 スマイル・ポート担当スタッフ：藤村メイ子さま

*今回の講座対象エリアではないが、外国人につながる人が多いので重要団体として訪問した

☆ヒアリング先での反応は以下のとおり：

- ・講座の集客はとても厳しく、防災に関心はあったとしてもそれだけで集客は難しいのでは／何かからめて／日本語教室の一環として／すでにある団体や外国人が集まるところに講座出前をする
(みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ 木村さん・王さん、中区国際交流ラウンジ 中村さん)
- ・親子で参加してもらおう(「のんびりんこ」安田さん、「はぐはぐの樹」横田さん)
- ・何らかの付加価値が必要(「はぐはぐの樹」横田さん)
- ・ターゲット国籍をしぼったほうがいい、多言語だと通訳の問題の他に、文化・習慣の違い混乱を招くことも(みなみ市民活動・多文化共生ラウンジ 木村さん)

- ・概念のとらえ方などが異なり防災訓練をする意味を感じてくれない。(「はぐはぐの樹」横田さん)
- ・地震そのものの概念がない国出身だと、まずはそこから教えないと防災の意味がわかってもらえない(南消防署 松永さん)
- ・言葉の壁／チラシを作る段階から講座まで、使う言葉をなるべく簡単にわかりやすく。(中華街小紅保育園 サクマさん、Art Lab Ova ツルさん)
- ・小学校高学年であれば子どもが通訳になり得る(日枝キッズ 大下さん、南消防署松永さん、Art Lab Ova ツルさん)
- ・情報がある人は自らネット検索して情報を得ている(中華街小紅保育園 サクマさん、「はぐはぐの樹」横田さん)
- ・曜日を考慮しながら、防災訓練などの参加率をあげている(日枝小学校副校長三橋先生)
- ・外国人同士のコミュニティーに一人でもいいのでパイプとなる日本人が入って、情報を共有し、誤った理解を訂正する人がいるといい(YOKE 藤井さま)
- ・たくさん伝えたい情報はあがるが、何回にわけて、継続的に講座をすることによって、地域拠点に来てもらい、日本人との関わりを持つきっかけにしてほしい(スマイルポート 藤村さま)
- ・地域の訓練などへの参加を促しているが、なかなか行きにくいのが実態。それぞれのコミュニティーがあれば(教会など)そこで防災講座などを行っている。(中区役所 菅野さま)
- ・外国国籍の方に学校に懇談会に来てくださいということはハードルが高いので、もっと敷居を下げる用な工夫が大事。こちらからはたらきかけを丁寧に段階をおっていくことがとても大事である(南吉田小学校 藤本校長先生)
- ・国民性の違いを知っておくことも大事。例えば、フィリピン人は雨の日は外出しないので、懇談会をやっても出席を期待できない。南吉田小学校 藤本校長先生)
- ・中国人のほうが防災・減災に対する関心事が低い。イザとなったら国に帰ればいいという意識があるからかもしれない。なので、なんとか彼らを巻き込み、一緒に意識を高めたいと考えている(熊貓幼稚園 PTA 会長 川野さま)
- ・情報がある人／ない人の差＝場に来る人／来ることができない人の差(ほとんどの方が感じている)
- ・外国人に通じる団体やキーパーソンの紹介(すべての方から)
- ・関連イベントの紹介(すべての方から)
- ・当法人の講座をとっても大切な取り組みと考えられて、場所の提供やチラシを置いてくださる等、とても協力的(すべての方から)
- ・当法人で講座企画参考用のアンケートに協力します(すべての方から)

3. 外国人の子育て中のママにヒアリング

① ヒデ君ママ	「のんびりんこ」に遊びにきていたヒデ君(10か月)のママ。上海出身、日本で勤務経験あり。311も体験している。「のんびりんこ」の他に、中国人が多いマンションに住んでいるので、その2つが自分の居場所である。マンションの防災訓練に他の中国人も含め参加した。市や区の防災講座などがあっても参加はしないと思う。普段から最低限の備えはしている。
② ベッティーさん	ペルー出身の小学生のママ。シャーロック Baby スタッフ。日本語はだいぶ

	慣れてきたので PTA にも参加しているが、難しい事柄や学校からのプリント類が読めなくて大変なことも。311 の時はご主人が日本人のため、情報には困らなかった。
③ 関口麗さん	中国人 3 世の 1 歳のママ。横浜子育て情報スポット「あのね」スタッフ。中学まで中華学校でその後は中国語を使う機会がほとんどない。自分のコミュニティーは日本人。
☆9 月のスマイルポートで行われた小児救急講座で参加者	④インド人のママ：インドではこのような救急講習会もなかったのでは、とても興味深く、ためになったとおしゃっていた。連続の 2 回目の講座もまた参加したいと、とても意欲的に参加していた。 ⑤フランス人のママ：再確認のために何回か AED を受けている。普段から色々なことに興味を持ち、イザという時の準備をしているようだった。 ⑥中国人のママ：119 番をかける練習をしたいので次回も参加申し込みをしました。
☆熊貓幼稚園の PTA 理事会の方たちへのヒアリングで	⑦日本人保護者は防災に対する意識は高いが、中国国籍のお母さんたちはイザという時は中国に戻ればいいという考えがあるので、その意識を変えたい。 ⑧子ども帰宅困難になった時の行政の対応を知りたい

4. 外国人ママとアプローチ方法

おおまかに分類するとママたちは以下のとおり：

- 1、場に来るママ
- 2、働くママ
- 3、孤立しているママ

ヒアリングで聞いたママたちの特徴や様子などから今回の講座でのアプローチ方法を考えると：

	特 徴	様 子	アプローチ方法
場 に 来 る マ マ	場：国際ラウンジ・子育て支援拠点や広場・教会・日本語教室・中華街ならば隣近所に中国人がいる・ご主人の仕事で来日していて社宅に同じ国籍の知り合いがいるなど	・自分たちの輪を作り他と交わることに積極的ではない ・場にそれ以上のことは求めていない様子 ・市・区情報からの講座出席もあまり期待できない	・その場に出向いてインタビューを行い、そこで興味を持ってもらい講座への参加を促す。
働 く マ マ	とにかく忙しい	・講座などに出席する余裕がない ・日程や内容の工夫次第で集客を期待できるか??	・保育園や放課後の居場所などそれぞれのお迎えの時間に合わせて講座を行う。 ・子どもを介してリーチ

孤立しているママ	情報もなく、場にも出てこれない 生活的に貧困層である	<ul style="list-style-type: none"> ・情報をどのように届けるのか、どの団体も悩むところ ・ネグレクトの母親もいる どこにいるのかわからない ・夜の商売のため、その子どもたちは日夜問わず近所を歩きまわっていて、きちんとした食事もしていない。 	<p>講座のチラシなど色々な場所に置くことによって、目につきやすくなる。</p> <p>参加の有無より、まずは視覚的に訴え、地域での活動や場所の存在を知ってもらうことから始める。</p>
----------	-------------------------------	---	---

☆結論☆

それぞれの層の違いを踏まえ、異なったアプローチで講座を企画する

*冒頭の繰り返しになるが、外国人に関するまとまったデータがない。このためヒアリングは価値があるので、今後も積極的にヒアリングをすすめる！！

5. 講座企画と取組

・ヒアリングを通じ外国人女性の実態もみえてきて、講座の出前先では先方のニーズをよく知り、話し合い、必要に応じた資料作成はもちろん、チラシや資料の多言語化も欠かせないなど、より綿密な講座企画が大事であることがわかった。

・行政のヒアリングでは、外国人に関する課題（例えばゴミ捨など日常生活に関する課題）が多く、なかなか防災まで手が届き切っていないということがわかった。そういう意味でも私たちのようなNPO 法人が率先して防災に取り組んでいくことに意義があると感じた。

・外国人に関するまとまったデータがないこともあり、独自に防災情報アンケート（サバイバルアンケート）を実施。より多くの回答をもとめ、中区・南区・西区の地域子育て拠点や外国国籍が多いとされる南吉田小学校と今回の出前先の日枝小学校とパンダ幼稚園で実施。外国人女性の防災情報把握状況とニーズを探った。こちらの報告については別添の「外国人女性の防災に関する情報アンケート実施報告」を参照。

以上